

東日本ブナクラス域におけるコナラ林の概観 (II)

山 崎 惇

A. Yamazaki : *Quercus serrata*-Wälder in der *Fagetea crenatae*-Gebiet in dem östlichen Japan (II)

B. ウゴツクバネウツギ-コナラ群落 *Abelia spathulata* var. *stenophylla*-*Quercus serrata*-Gesellschaft

新潟県から秋田県の高抜 600m 以下の山腹に、コナラが優占しクリ、カスミザクラ、ホノキなどが混生する夏緑広葉樹林が発達している。調査された植分は、極く一部に限ざられているが、調査された範囲のこれらの群落は、ウゴツクバネウツギ、タニウツギ、オクチョウジザクラ、キタコブシ、ミチノクホンモンジスゲなど多数の裏日本要素により、表日本のクリーコナラ群集 (奥田他1976)、裏日本のコナラ、ミズナラ混交林のオオバクロモジコナラ群集 (大場1973) など他のコナラ林と明確に区分され、ウゴツクバネウツギ-コナラ群落にまとめられる。東日本の日本海側に分布するコナラ林であり、冬季多雪型の山地の一つのタイプと言える。

ウゴツクバネウツギ-コナラ群落の立地は、高抜 30~600m の山腹にあり、傾斜 30~40° 所によっては 40° を越える急峻な地形であり表土の動きやすい不安定な所が多い。傾斜方向は南東から南西の南向きの斜面が中心となっており、急峻な地形と相まって冬の積雪期以外は、乾燥する地域である。

土壌の安定した尾根筋ではブナ林に接し、斜面が平坦地につながる所では耕地など人為的植生に接している。したがって人為的影響も強く大部分が二次林となっているが、こゝ 20~30 年は伐採が行われていないものと見え、胸高直径 20~30cm に達している所が多い。中には、栃尾市の一部のように、ほとんど人手が加わっておらず胸高直径 30~50cm に成長した自然林に近い植分も認められた。

このような平野周辺の丘陵地のコナラ林について新潟県では、相沢、瀬沼他 (1976) は、一端はオクチョウジザクラ-コナラ群落にまそめ、1977 年にウゴツクバネウツギ-コナラ群落に訂正している。又、奥田他 (1978) は、弥彦・角田地域のコナラ林をオクチョウジザクラ-コナラ群落としてまとめ報告している。秋田県においては、越前谷 (1975) は、秋田市大滝山のコナラ林をウゴツクバネウツギ-コナラ群落にまとめている。筆者が新潟県中部と秋田県中部で調査した結果をこれら三つの報告書の資料と

比較検討した結果、両県のコナラ林は、いずれも前記の種群により他のコナラ林と区分されウゴツクバネウツギ-コナラ群落としてまとめられた。(総合常在度表は次号で示す)。

調査されたウゴツクバネウツギ-コナラ群落は、高木第 1 層の植生高 13~17m の植分が多く、植被率も 80~90% とよく発達している。構成種は前記の種を中心に数種であり少ない。高木第 2 層は、第 1 層の幼木その他ハウチワカエデ、アカイタヤ、アズキナシ、アオハダ、コシアブラ等の上級単位の標徴種、区分種を中心に 10 数種により構成され、特に定まった優占種はない。低木層は、樹高 2~3m で植被率 80% 前後と大変よく発達している。構成種は、20~40 種と極めて多く、優占種はない。ウゴツクバネウツギ、オクチョウジザクラ、サルトリイバラ、タニウツギ、キタコブシなど区分種群が高常在度で出現する。その他ユキツバキ、オオバクロモジ、ハイイヌガヤ、ヒメアオキ、チシマザサ、ハイイヌツゲなど多数の裏日本要素が恒常的に出現し林内を特徴づけている。草本層は、植生高数 10cm、植被率 30~60% とあまり発達していない。ヤマユリ、ヤブコウジ、ショウジョウスゲ、ナガハシスミレなどの区分種その他、チゴユリ、タチシオデ、シシガシラ、シュンラン、ワラビ、イワガラミなどが恒常的に出現している。

ウゴツクバネウツギ-コナラ群落は種組成から、オクチョウジザクラ、ユキツバキ、ツルアリドウシ、アクシバ、ヒメカンスゲなど多数の種で区分されるオクチョウジザクラ下位単位と、ミチノクホンモンジスゲ、クマイザサ、マルバアオダモ、ナガハシスミレなどで区分されるミチノクホンモンジスゲ下位単位に下位区分される。

オクチョウジザクラ下位単位は、新潟県のコナラ林がこれに当り、山腹の西斜面の 40° 前後の急峻な乾燥地に発達する植分である。相沢 (1976) および、奥田他 (1978) のオクチョウジザクラ-コナラ群落は、この下位単位に含まれるものと思われる。

ミチノクホンモンジスゲ下位単位は、秋田県で調査されたコナラ林のうち、本庄市、由利郡などの比較的海岸近くの植分がこれに当る。越前谷 (1975)

Tab. 2. *Abelia spathulata* var. *stenophylla* - *Quercus serrata* - Gesellschaft, etc. : ウゴツクバネウツギ-コナラ群落他

a. *Abelia spathulata* var. *stenophylla* - *Quercus serrata* - Gesell. : ウゴツクバネウツギ-コナラ群落

i). Untereinheit von *Prunus apetala* var. *pilosa* : オクチョウジザクラ下位単位

ii). Untereinheit von *Carex stenostachys* var. *cuneata* : ミチノクホンモンジスゲ下位単位

b. *Styrax obassia* - *Quercus serrata* - Gesellschaft : ハクウンボク-コナラ群落

		a															b	
		i)							ii)									
Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
Datum d. Aufnahme:	調査年月日 (' 78)	9/12	9/13	"	"	"	"	"	9/28	"	"	"	9/29	"	"	"		
Fundorte:	調 査 地	新潟県十日町市	栃尾市小仏	"	"	上ノ原	中野俣	荷須	秋田県本庄市八幡	由利郡大内	松本	石橋	田沢湖大池	"	刺巻	田沢湖		
Höhe ü Meer:	海拔高 (m)	330	60	90	100	350	100	100	30	40	45	200	230	250	300	425		
Exposition:	方 位	S	SW	SW	W	SW	SW	S	SE	SE	NW	SW	SE	NW	W	-		
Neigung:	傾 斜 (°)	75	40	40	40	20	35	30	25	35	30	15	30	25	35	L		
Große d. Probestfläche:	調査面積 (㎡)	200	400	400	300	150	400	400	300	400	600	400	600	500	400	200		
Höhe d. Baumschicht-1:	高木第1層の高さ (m)	12	15	13	14	-	17	15	13	15	14	17	13	16	19	14		
Deckung d. Baumschicht-1:	" の植被率 (%)	85	70	90	90	-	85	75	90	80	80	90	80	85	80	95		
Höhe d. Baumschicht-2:	高木第2層の高さ (m)	6	6	6	6	10	10	10	6	8	6	8	6	10	10	8		
Deckung d. Baumschicht-2:	" の植被率 (%)	40	70	40	40	70	20	60	60	30	60	30	20	75	50	40		
Höhe d. Strauchschicht:	低木層の高さ (m)	2	1.5	2.5	3	2	3	2	2	2	3	2	2	2	4	2		
Deckung d. Strauchschicht:	" の植被率 (%)	80	80	80	80	90	90	90	45	80	50	80	80	60	80	60		
Höhe d. Krauschicht:	草本層の高さ (K)	0.3	0.5	0.7	0.6	0.5	0.5	0.7	0.9	0.3	0.6	0.7	0.4	0.5	0.7	0.3		
Deckung Krauschicht:	" の植被率 (%)	40	40	50	60	40	20	40	80	60	70	50	30	30	20	60		
Artenzahl:	出現種数	30	48	43	59	31	38	53	63	73	86	64	73	54	50	53		
Trennarten d. Gesellschaft-a:		ウゴツクバネウツギ-コナラ群落区分種																
Rhododendron kaempferi	ヤマツツジ	S	2+2	3+3	3+3	1+1	.	+2	2+2	.	+2	+	+	2+2	.	.	.	
		K	.	.	2+2	.	2+2	.	1+2	.	.	.	.	.	.	.	.	
Smilax china	サルトリイバラ	S	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+2	+	+	.	.		
Weigela hortensis	タニウツギ	S	.	+	+2	+2	+	+2	+2	.	+	+	.	2+2	.	.	.	
Lilium auratum	ヤマユリ	K	.	+	.	+	.	.	+	+	.	+	+	+	.	.	.	
Ardisia japonica	ヤブコウジ	K	.	+2	.	1+2	.	.	+2	+2	+2	1+2	.	.	.	.	.	
Magnolia kobus var. borealis	キタコブシ	B ₂ , S	.	.	.	+2	.	.	.	+	+	+	+2	+	.	.	.	
Abelia spathulata var. stenophylla	ウゴツクバネウツギ	S	.	.	.	.	.	+2	+2	.	+	+2	+2	1+2	.	.	+	
Pourthiaea villosa var. laevis	カマツカ	S	.	.	.	+	.	.	.	+	+	+2	+2	.	.	.	.	

Trennarten d. Untereinheit -i) :

Prunus apetal a var. pilosa	オクチョウジザクラ	S, K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
Camellia rusticana	ユキツバキ	S	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
Mitchella undulata	ツルアリドウシ	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
Vaccinium japonicum	アキシバ	S, K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
Carex conica	ヒメカンスゲ	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
Epimedium sempervirens	トキワイカリソウ	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62																																						

[illegible]

Rhus trichocarpa	ヤマウルシ	S	+	1・1	2・2	・	2・2	1・1	1・1	・	+2	+	+2	+	+2	+2	+
Struthiopteris niponica	シシガシラ	K	+	1・2	+2	+2	+2	+	+2	・	+	1・2	1・2	1・2	+2	+	・
Solidago virga-aurea var. asiatica	アキノキリンソウ	K	+	・	・	・	・	+	+	+	+	+2	+	+2	+2	+	・
Cymbidium goeringii	ジュンラン	K	+2	・	・	・	・	+	・	・	1・2	+2	+2	+2	+2	+2	・
Pteridium aquilinum var. latiusculum	ワラビ	K	+	+	+	・	・	+	+	・	+	+	+2	・	・	+	+
Vaccinium oldhamii	ナツハゼ	S	・	+	+2	・	・	2・2	2・2	・	・	・	・	+	・	+	+2
Pertya rigidula	クルマバハグマ	K	・	+	+	・	・	+	+	・	・	・	・	+2	・	+	・
Schizophragma hydrangeoides	イワガラミ	K	・	+2	・	・	・	+	・	・	・	+	+2	+	・	・	1・2
Ophiopogon japonicus	ジャノヒゲ	K	・	2・2	+2	+2	・	・	+2	+2	・	+	・	・	・	・	・
Cryptomeria japonica	スギ	B ₂ , S	・	・	+	・	・	+	+2	+	・	+	・	・	・	・	2・2
Pueraria lobata	クズ	S, K	・	・	・	・	・	+	・	・	±	+	・	+	・	・	+2
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ	B ₂ , K	・	・	・	・	・	・	+	+	+	+	+	・	・	・	±
Osmunda japonica	ゼンマイ	K	・	+	・	+	・	・	・	・	・	+	+	・	・	・	・
Calamagrostis arundinacea var. brachytricha	ノガリヤス	K	・	+	・	・	・	・	・	・	+	・	・	1・2	・	・	・
Berchemia racemosa	クマヤナギ	S, K	・	+	・	・	±	・	・	・	・	・	・	+	・	・	・
Pinus densiflora	アカマツ	B ₁ , K	・	・	2・2	・	・	2・2	・	・	・	・	・	±	・	・	・
Oplismenus undulatifolius var. japonicus	コチヂミザサ	K	・	・	・	1・2	・	・	・	+2	・	+	・	・	・	・	・
Stegnogramma pozoi subsp. mollissima	ミゾシダ	K	・	・	・	+	・	・	・	+	・	・	・	・	+	・	・
Leucothoe grayana var. oblongifolia	ハナヒリノキ	S	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	2・2	・	+	・
Maackia amurensis var. buergeri	イヌエンジュ	B ₂ , S	・	・	・	・	・	+	+	・	・	+	±	・	・	・	・
Lactuca raddeana var. elata	ヤマニガナ	K	・	・	・	・	・	・	+	+	+	+	+	・	・	・	・
Lysimachia clethroides	オカトラノオ	K	・	・	・	・	・	・	・	+	・	+	・	+	・	・	・
Cephalanthera longibracteata	ササバギンラン	K	・	・	・	・	・	・	・	+	+	・	・	+	・	・	・
Rubus palmatus var. coptophyllus	モミジイチゴ	S	・	・	・	・	・	・	・	・	+	+	・	+	・	・	・

出現2回の種

ホツツジ Nr.2. S-+2 Nr.14. S-+, ミヤマカンスゲ Nr.3. K-+・2, Nr.15. K-2・2, ネムノキ Nr.3. S-+, Nr.9. K-+, コシノホンモンジ
スゲ Nr.4. K-+, Nr.6. K-+, チマキザサ Nr.4. S-+・2, Nr.7. S-+・2, オオバジャノヒゲ Nr.4. K-2・2, Nr.7. K-1・2, キブシ Nr.4.
S-+, Nr.10. S-+, イタドリ Nr.4. K-+, Nr.5. K-+, タムシバ Nr.5. S-+, Nr.11. B₂-+・2, ヤマハギ Nr.7. S-+, Nr.12. S-+, ミヤマ
アオダモ Nr.8. B₁-2・2, S-+・2, Nr.15. S-+, ノハラアザミ Nr.8. K-+, Nr.9. K-+, センニチソウ Nr.8. K-+・2, Nr.9. K-+, ウツギ Nr.9
S-+, Nr.10. S-+, マキノスミレ Nr.9. K-+, Nr.12. K-+, ハエドクソウ Nr.9. K-+, Nr.10. K-+, ホソバトウゲシバ Nr.9. K-+, Nr.13. K-+, オヤ
マボクチ Nr.9. K-+, Nr.10. K-+, テリハノタチツボスミレ Nr.10. K-+, Nr.11. K-+, カリヤスモドキ Nr.10. K-+・2, Nr.12. K-1・2, シケシダ
Nr.10. K-+・2, Nr.11. K-+, ススキ Nr.10. K-+, Nr.12. K-+・2, キバナイカリソウ Nr.11. K-+, Nr.15. K-+, ミヤマウズラ Nr.12. K-+, Nr.13.
K-+, アラゲアオダモ Nr.12. S-+・2, Nr.14. S-1・2, ヤマジノホトトギス Nr.12. K-+, Nr.13. K-+,

出現1回の種

Nr.1: サイコクミツバツツジ S-2・2; Nr.3: オオイワカガミ K-1・2; Nr.4: ヤマアジサイ S-+, ニガイチゴ S-+, イケマ K-+, ハバヤマボクチ K-
+, ウド K-+, ノササゲ K-+, キクバドコロ K-+, オオタチツボスミレ K-+, ハツショウツル K-+, シロヨメナ K-+; Nr.7: エゾユズリハ S-+, ヒ
ロハツリバナ S-+, ミズキ S-+; Nr.8: ニセアカシア B₁-1・1, B₂-+・2, カシワ B₁-1・1, クロウメモドキ S-+, ハネガヤ K-+, ソバナ K-+,
オトコエシ K-+, シオデ K-+, チヂミザサ K-+・2, クルマバソウ K-1・1, イノコヅチ K-+, コバギボウシ K-+, ヒメジョオン K-+, キリンソウ K-
+, スイバ K-+, ツルマサキ K-+, ミズヒキ K-+・2, トラノオシダ K-+・2, キツタ K-+, ツユクサ K-+, ホタルサイコ K-+・2, ホタルカズラ
K-+; Nr.9: ヨモギ K-+, アオネザサ S-+・2, アワブキ S-+, ヤブラン K-+, クモキリソウ(?) K-+, ツリガネニンジン K-+, ヘクソカズラ K-+,
ヒヨドリバナ K-+, アマニュウ K-+; Nr.10: キッコウハグマ K-+, スミレ K-+, ヤマウコギ S-+, チョボガヤ K-+, ナルコユリ K-+, ノダケ K-+,
キバナアキギリ K-+, クサボタン K-+, ヒロバスゲ K-1・1, ダキバヒメアザミ K-+; Nr.11: サワフタギ S-+, ノリウツギ S-1・1, ヒゴクサ K-+
・2; Nr.12: オケラ K-+, トコロ K-+, レンゲツツジ S-+・2, ヨツバヒヨドリ K-+, ニガナ K-+, ミツバツチグリ K-+; Nr.13: マツバサ K-+, ウ
スバサイシン K-+, アケボノシュスラン K-+; Nr.15: クルマバツクバネソウ K-+・2, サワダツ K-+, オシダ K-+, クルマユリ K-+, スズビトハギ K-
+, ヤブマメ K-+, サルナシ S-+;

のウゴツクバネウツギ-コナラ群落は、この下位単位と同一の植分と考えられる。

C. ハクウンボク-コナラ群落

Styrax obassia-*Quercus serrata*-Gesellschaft

秋田県田沢湖付近で調査された植分は、ウゴツクバネウツギ-コナラ群落の区分種を全く欠き、ハクウンボク、アブラチャンにより区分されるので、一応、ハクウンボク-コナラ群落としてまとめられたが、調査数が少ないこと、区分種が弱いことなどを考慮すると、更に、今後の詳しい調査検討を要する群落である。

山形形付近のコナラ林については筆者は未調査である。斉藤(1975)の蔵王山系の西斜面のコナラ林の調査報告によると、山形盆地や斜面の下部のコナラ林は、ハイイヌガヤ、オクノカンスゲ、シュンランなどが優占していることから見て、秋田のミチノクホンモンジスゲ下位単位につながる植分か、あるいは、典型下位単位になるものと思われるが、組成表がないので確かなことはつかめない。今後の調査研究が必要である。

以上両群落ともにミヤマガマズミ、チゴユ、カシミザクラ、エゴノキ、クリ、タチシオデなど多数の種および区分種として、イヌシデ-コナラ群団にまとめられる。

〔新刊紹介〕森和男「カラーブックス 洋種山草」A 6判 151頁 保育社発行(1981年)、500円。

山草愛好家が増え各地に同好会が生まれ、全国的な交流が盛んになって各地の山草が収集栽培されるこの頃である。国内の山草だけで満足できない人は外国の山草を求めて際限がない。国際交流も盛んになった現在外来の山草の栽培も各地に定着しつつある現状にもかかわらず、これら山草についてのガイドブックは少ない。本書はこれを補うものとして充分とはいえないまでも一般向の書として大いに役立つ。

著者は日本ロックガーデン協会の事務局を担当し現在八ヶ岳山麓で導入植物の馴化栽培に当たっておりその豊富な経験に基づいて外国より導入された山草の中から代表的なもの83種をとりあげてカラー写真や図版に説明を加えて紹介している。その鮮やかな色彩と形態は山草愛好家にとって垂涎的であり文字どおりガイドブックにもなることであろう。一般人が見ても美しく楽しい。

また本文では、東欧圏プラハの山草界は東西の稀

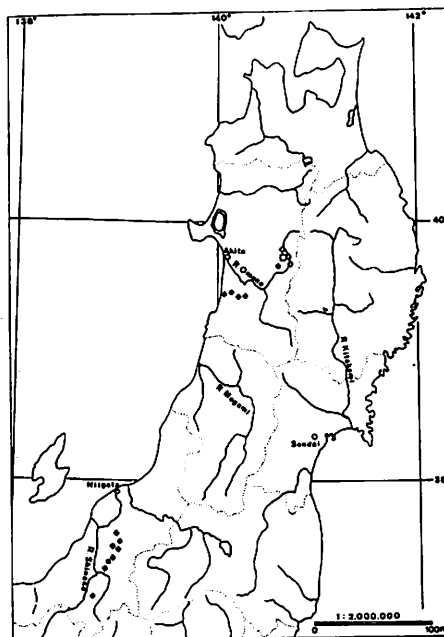


Fig. 2. ウゴツクバネウツギ-コナラ群落他調査地点図
Lage der Vegetations-aufnahmen des *Abelia spathulata* var. *stenophylla*-*Quercus serrata*-Gesellschaft, etc. in der östlichen Japan.

◆印：ウゴツクバネウツギ-コナラ群落

◇印：ハクウンボク-コナラ群落

品を集めた豊庫であることとか、意外に知られていない山草の性質とか、世界各地で出会ったすばらしい山草などについてとか、トピックやエピソードが描かれており誰もが興味をもって引き込まれていく。

栽培の実際については、その自生地を知ることの大切さ、現在栽培されている洋種山草はじょうぶなものであまり細かい自生状況を知らなくてもおそらく容易に生育するだろうこと、用土、鉢、実生づくりのこと、また植物の輸出入について注意すべきことや洋種山草の和名のことなど広汎に亘り簡潔に述べられており、一般の人にも理解しやすく参考になることが多い。(S. S.)

〔植物ニュース〕42. ネビキミヤコグサ *Lotus uliginosus* Schkuhr

霧が峯池のくすみ、1980年8月6日初見。セイヨウミヤコグサに比して一花序の花数が多く、茎は中空、根元から分れる枝が多い。かつて松本市女鳥羽川にワタリミヤコグサが現われたが河床整備で消えた。果してこれもどうなるだろうか。(浅川富雄)